

ドラムのベロシティ

8ビット & 16ビット

キックのベロシティ

8ビートや16ビートにおけるキックのベロシティは、以下のルールに従います。

- 強拍 > 中強拍 > 弱拍 > ウラ拍
- シンコペーションは強く演奏する
- 4つ打ちの場合はなるべく均等に

強拍 > 中強拍 > 弱拍 > ウラ拍

原則として、強拍である1拍目が最も強く、次点が中強拍である3拍目、弱拍となる2拍目と4拍目はさらに弱くなります。

また、「8分ウラ」「16分ウラ」などのウラ拍にあるキックは、オモテ拍よりもさらに弱くなる傾向にあります。

シンコペーションは強く演奏する

仮にウラ拍におかれたキックであっても、シンコペーションの場合は強く演奏します。

シンコペーションは、強拍や中強拍にあるアクセントを前倒したものですから、必然的にアクセントも引きつがれます。

4つ打ちの場合はなるべく均一に

4分音符で毎拍キックを演奏するいわゆる「4つ打ち」の場合には、ベロシティはなるべく均一にします。

ハウスやトランスなどダンスミュージックのイメージで、淡々とシンプルに刻んであげた方がマッチするでしょう。

もちろん、生演奏を模して多少の増減(ブレ)を加えるのはOKです。

スネアのベロシティ

「8ビート」「16ビート」のスネアは、
2拍目と4拍目で演奏するのが基本です。

いずれも弱拍で鳴らすことが前提ですので、
両者は均等なベロシティで打込んでしまっても構いません。

元気良い仕上がりにしたい場合は比較的強めのベロシティ、
ソフトな仕上がりにしたい場合は弱めのベロシティを設定すると
良いでしょう。

ハイハット&ライドのベロシティ

8ビートや16ビートにおけるハイハット&ライドのベロシティは、以下のルールに従います。

1. 表ノリの場合は「オモテ拍 > ウラ拍 > 16分ウラ」
2. 裏ノリの場合は「ウラ拍 > オモテ拍 > 16分ウラ」

表ノリの場合は「オモテ拍 > ウラ拍 > 16分ウラ」

オモテ拍を強く感じる、いわゆる「表ノリ」の場合は、オモテ拍を強く打込みウラ拍を弱く打込むとよいでしょう。

16ビートにおける16分ウラはさらに弱く打込みます。

表ノリの場合、2拍目 & 4拍目のスネアと同時に演奏されるハイハットは、1拍目 & 3拍目より強く演奏されることが多いです。

表ノリの場合は「オモテ拍 > ウラ拍 > 16分ウラ」

オモテ拍を強く感じる、いわゆる「表ノリ」の場合は、オモテ拍を強く打込みウラ拍を弱く打込むとよいでしょう。

16ビートにおける16分ウラはさらに弱く打込みます。

表ノリの場合、2拍目 & 4拍目のスネアと同時に演奏されるハイハットは、1拍目 & 3拍目より強く演奏されることが多いです。

裏ノリの場合は「ウラ拍 > オモテ拍 > 16分ウラ」

楽曲によっては、ウラ拍を強調した、
いわゆる「裏ノリ」にしたい場合もあるかと思います。

そのような場合は、
先ほどとは逆にウラ拍を強調した刻みにしてあげればOKです。

4ビート & 2ビート

ハイハット & ライドのベロシティ

4ビートや2ビートにおけるハイハット & ライドのベロシティは、以下のルールに従います。

1. 4ビート = 2拍目 & 4拍目を強めに
2. 2ビート = 1拍目 & 3拍目を強めに
3. ジャズ・ワルツ = 2拍目 & 3拍目を強めに

4ビートのシンバルレガートは2拍目 & 4拍目を強めに

2拍目と4拍目で刻まれるフットハイハットに合わせて、シンバルレガートにもアクセントをつけてあげるとそれっぽくなります。

以下の通りになります。

- 2拍目 & 4拍目 > 1拍目 & 3拍目 > ウラ拍(3連ウラ)

2ビートのシンバルレガートは1拍目 & 3拍目を強めに

2分音符のフィールを出すために

1拍目 & 3拍目を強く演奏することになります。

逆に、2拍目と4拍目は極力弱く演奏するか、
あるいはフットハイハットのみにも留めても十分なくらいです。

イメージとしては以下の通りとなります。

- 1拍目 & 3拍目 > ウラ拍(3連ウラ) > 2拍目 & 4拍目

ジャズ・ワルツのシンバルレガートは2拍目 & 3拍目を強めに

ジャズ・ワルツでは、
2拍目と3拍目で刻まれるフットハイハットに合わせて、
シンバルレガートにもアクセントをつけるのが良いでしょう。

イメージとしては以下の通りとなります。

- 2拍目 & 3拍目 > 1拍目 > ウラ拍(3連ウラ)

キックのベロシティ

4ビートや2ビートにおけるキックの入れ方は、以下の2種類が考えられます。

1. 積極的にビートを刻む場合
2. アクセントをつけたい場所でのみ演奏する場合

積極的にビートを刻む場合

4ビートや2ビートにおいて、キックで積極的にビートを刻む場合、キックは以下のタイミングで演奏されます。

- 4ビート=4つ打ち
- 2ビート=2拍ごと
- ジャズ・ワルツ= 強拍(1拍目)のみ

アクセントをつけたい場所でのみ演奏をする場合

シンバルレガートがリズムの主体となる4ビート & 2ビートでは、
「アクセントをつけたい場所」でのみ
キックを入れるというスタイルも登場します。

その場合は、その時その時で楽曲に
マッチした強さを吟味して入れてあげればOKです。

スネアのベロシティ

4ビートや2ビートにおけるスネアの入れ方は、以下の2種類が考えられます。

1. 積極的にビートを刻む場合
2. ゴーストノート中心

積極的にビートを刻む場合

4ビートや2ビートにおいて、スネアで積極的にビートを刻む場合は、8ビートや16ビート同様に2拍目と4拍目で演奏することになります。

したがって、ベロシティも8ビートや16ビートと同様の考え方でOKです。

ゴーストノート中心

スネアで積極的にビートは刻まず、主にゴーストノートを使ってグルーヴ感をプラスしていくスタイルもあります。

ゴーストノートは、聞こえるか聞こえないかくらいのソフトな音量で演奏するのが基本ですので、自ずとベロシティも控えめになります。